

和服の袖丈に関する一考察 (ふだん着)

A Note on the Sleeve Width of Kimono (for Daily Wear)

本間小枝子

Saeko Homma

For the purpose of determining the appropriate width of the sleeve, we have conducted the following experiment on 145 students. Each student raises her extended arm horizontally. An assistant places a piece of fabric of the student's choice, and adjusts the width of the sleeve by moving it up and down. An examiner stands behind the student (2 or 2.5 meters away from her) and observe. The examiner records the width which she feels is most suitable to the student. This width is called the "impressionistically determined sleeve width". This experiment shows that the average impressionistically determined sleeve width is about 30 or 31 percent of the student's height. Therefore, we suggest that one way to determine the appropriate sleeve width for a person is to measure the impressionistically determined sleeve width for her.

I 緒言

和服は直線裁ちのため、色彩と模様、即ち柄合せの工夫などによって、個性を生かすようにすることが大切である。しかし、たとえ色彩や模様の配置が上手になされたとしても、和服を着装したときに、和服の一つのポイントでもある袖丈が、その人にふさわしく調和のとれた寸法でなければ、より美しい姿をつくりあげることはできないものと考えられる。

例えば、私どもが衣服やその材料を購入する場合、まず、これらを身体にあててみて、似合うかどうかをたしかめるのが常である。このように人間のもつ感覚的役割は大きいものと思う。

そこで、和服の袖丈を決めるについても反物の一部を身体にあててみて、体格や個性にあった袖丈を感覚的に決め、これを着装上からみて、その人にふさわしく、美的であるかどうかを総合的に検討する必要があると考え本調査を行なったものである。

II 調査方法

調査の対象は、本学の学生和裁履修者について第1表のように、昭和44年から昭和48年までの5年間にわたり合計145名について調査を行なった。

これを出身地方別にまとめると、第2表のようである。なかでも、東京が最も多く、半分以上（56%）を示め、ついで、関東地方（31%）であった。

身体の計測・採寸の時期は毎年5月とした。

袖丈の決め方は、被検者が好みのゆかた地を用いて、第1図のように立ち、上肢を側方水平にあげる。一般に、和服は着たときの袂の先がシルエットの袖丈とされているので、これを考慮しながら、上肢を側方水平から下垂した状態の範囲内で、上肢をあげたり、さげたり姿勢をとる。そばに補助者がいて、その上肢に布の一端をかけて、検査者の指示にしたがいながら、袖丈を長くしたり、短くしたり調節をして決定する。

第1図 袖丈の決め方



にもとずき、着下以下、身丈・袖丈をのぞく7項目については、紙テープを用いて計ったものである。

〔第1表〕年度別被検者数

年 度	人 数
昭和44年度	38人
45	41
46	18
47	20
48	28
合 計	145

〔第2表〕出身地方別被検者数

区 分	人 数
北 海 道	2人
東 北	5
関 東	45
東 京	81
甲 信 越	5
東 海	1
中 国	2
九 州	4
合 計	145

（郵便番号簿の区分による）

検査者は、4人から5人で、被検者の後方（2～2.5m）の見やすい距離より観察し、その人にふさわしい袖丈を決める。これを感覚的袖丈と仮称する。

被検者は感覚的袖丈によって裁断し、ゆかたを同年7月上旬までに作製する。これと同時に、半幅帯を用いて文庫結びの着装を試みた。

着装した被検者は4人から5人ずつ並び、上肢を側方水平から下垂した状態の範囲内で、上肢を上下に動かしてポーズをとる。

検査者は、最低14人から最高35人で、その人にふさわしい袖丈であったかどうかをお互いに観察しあった。

その結果、約100%感覚的袖丈でよいことがわかった。これから述べる袖丈は、すべて感覚的袖丈によるものである。

身体の計測・採寸は、身長、胸囲、体重については、毎年5月に行なわれる学校の定期身体検査

主な採寸方法は下記のようにある。

着丈：衿つけぎわから前後にテープをたらし床までの寸法の1/2とする

身丈：着丈に「はしおり」分23cmを加える。

背総丈：衿つけぎわ（第7頸椎）から床まで、

背丈：くびのつけ根のぐりぐり（第1胸椎）からウェストまで

腰下丈：ウェストから床まで

ゆき丈：上肢を側方水平にあげて、背骨から手首のくるぶしまで

くび回り：くびのつけ根まわり

腕つけ回り：腕のつけ根まわり、洋服のアームホールと同じ

腰回り：ヒップの一番太いところ

III 結果と考察

1. 材料

材料としての地質・柄・模様・配色などについて調査すると、ゆかた地の地質は綿100%で、地色は第3表のように、白地が最も多く77.9%、藍色地18.6%、水色地2.1%、えんじ色地1.4%の順に用いられていた。

柄についてみると柄の単位は、大柄ものは約1m、

【第3表】布の地色

布の地色	人数	割合
白地	113人	77.9%
藍色地	27	18.6
水色地	3	2.1
えんじ色地	2	1.4
合計	145	100.0

【第4表】柄の種類

布の地色	柄				合計
	大柄	中柄	小柄		
白地	人 8 (7.1)%	人 98 (86.7)%	人 7 (6.2)%		人 113 (100.0)%
藍色地	10 (37.0)	17 (63.0)	—		27 (100.0)
水色地	—	3 (100.0)	—		3 (100.0)
えんじ色地	—	—	2 (100.0)		2 (100.0)
合計	18 (12.4)	118 (81.4)	9 (6.2)		145 (100.0)

中柄ものは約50cmぐらいであった。

柄の種類は第4表のように、中柄が81.4%と最も多く、ついで、大柄12.4%、小柄6.2%の順となっていた。そして、地色が藍色の

ものは、白地のものと比較して大柄ものが多いのは、色彩関係の上から効果的なのであろうか。

模様についてみると、第5表のように、季節感や、女性らしい美しさを表現した花（あやめ、ひまわり、あざみ、ダリヤなど）が、74.4%と最も多く、ついで、木の葉（いちよう、もみじなど）8.3%、昆虫（ちょう）、その他（扇子・鼓など）5.5%の順となっている。しかし、日本的模様の代表ともいえる、亀甲、格子、緋などは僅少となっていた。

色の組合せは第6表のように、各地色ともに1色のものが64.8%と最も多く、2色は17.9%、3色は13.8%の順となっていた。これは、ゆかたのもつ性質上からであろうか、清涼感を与えるた

めに、多色をあっかったものは非常に少なくなっている。

配色についてみると、第7表のようである。

白地には13色の色が使用されており、そのうち

〔第5表〕 模様の種類

模 様	人 数	割 合
花	108人	74.4%
木の葉	12	8.3
昆虫	8	5.5
亀甲	4	2.8
格子	3	2.1
緋	2	1.4
その他	8	5.5
合 計	145	100.0

〔第6表〕 色の組合せ

布の地色	色種類		1 色	2 色	3 色	4 色以上	合 計			
	人	%	人	%	人	%	人			
白 地	75	(66.4)	19	(16.8)	15	(13.3)	4	(3.5)	113	(100.0)
藍 色 地	16	(59.3)	6	(22.2)	4	(14.8)	1	(3.7)	27	(100.0)
水 色 地	1	(33.3)	1	(33.3)	1	(33.3)	—	—	3	(100.0)
えんじ色地	2	(100.0)	—	—	—	—	—	—	2	(100.0)
合 計	94	(64.8)	26	(17.9)	20	(13.8)	5	(3.5)	145	(100.0)

藍色が65.5%と最も多く、ついで、水色26.6%、えんじ色19.5%の順で、その他の色は、比較的少なかった。

藍色地には9色の色が使用されており、特に白色が96.3%と圧倒的に多く、水色・桃色は、

〔第7表〕 配色

色	白地 (113)	藍色地 (27)	水色地 (3)	えんじ色地 (2)	合計 (145)
地色	人	人	人	人	人
藍 色	74 (65.5)	1 (33.3)	—	—	75 (51.7)
水 色	30 (26.6)	4 (14.8)	—	—	34 (23.5)
えんじ色	22 (19.5)	1 (3.7)	1 (33.3)	—	24 (16.6)
黒	10 (8.9)	—	—	—	10 (6.9)
桃 色	7 (6.2)	4 (14.8)	—	—	11 (7.6)
赤	6 (5.3)	—	—	—	6 (4.1)
紫	6 (5.3)	2 (7.4)	—	—	8 (5.5)
緑	6 (5.3)	—	—	—	6 (4.1)
橙 色	4 (3.5)	2 (7.4)	1 (33.3)	—	7 (4.8)
ねすみ色	4 (3.5)	—	—	—	4 (2.8)
黄 色	3 (2.7)	3 (11.1)	—	—	6 (4.1)
黄 緑	1 (0.9)	1 (3.7)	1 (33.3)	—	3 (2.1)
赤 紫	1 (0.9)	1 (3.7)	—	—	2 (1.4)
白	—	26 (96.3)	2 (66.7)	2 (100.0)	30 (20.7)
合 計	174 (154.0)	44 (163.0)	6 (200.0)	2 (100.0)	226 (155.9)

注 地色の合計が100%をこえるのは1人が何色もあつまっているからである。

14.8%，黄色は11.1%の順で，他の色は，少なくなっていた。また，水色地・えんじ色地においても白色が多く使用されていた。

これらの点から，ゆかた地には藍と白をあしらった寒色系統で，日本の季節美を鮮明に表現しているものが多いようである。

2. 身体計測・採寸

身体計測・採寸の結果は第8表の通りであった。

1) 身長分布

身長分布は第2図のように，143cm から170cm におよんでいる。これによると身長の平均値は155.5cm であった。これを厚生省の「国民栄養の現状」に報告された，女子19歳の平均身長，昭和46年の154cm，昭和47年の153.4cm，昭和48年の153.2cm と比較すると，本調査の方が約1.5cm から2cm 高い。また，文部省の「学校保健統計報告書」による，大学・短期大学女子19歳の平均身長，昭和45年の156.6cm，昭和46年の156.7cm と比較すると約1cm 低い，いずれも統計的にみて有意ではなかった。

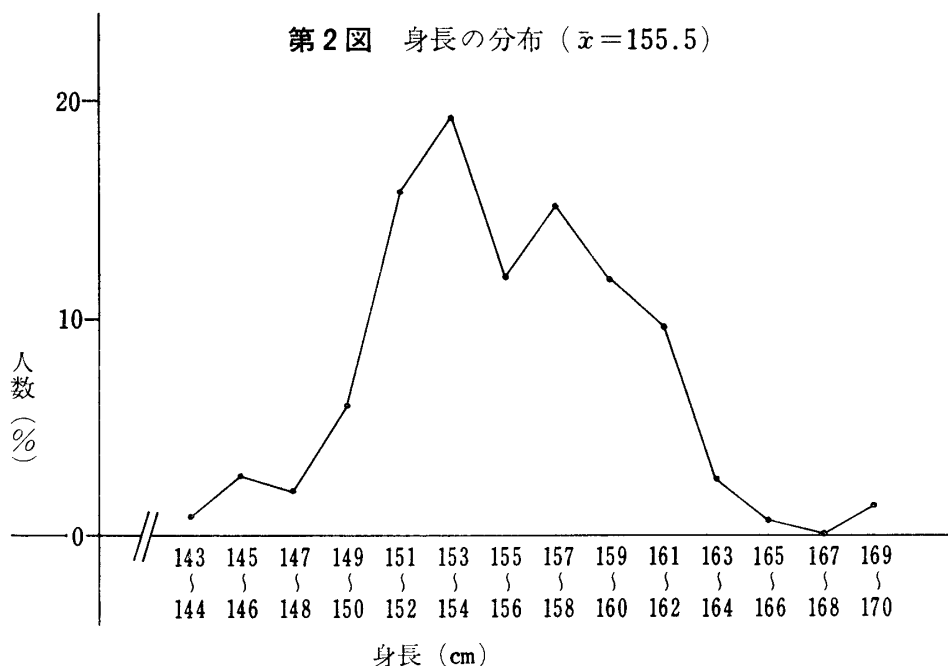
2) 着丈分布

着丈分布は第3図のように，123cm から

【第8表】身体計測・採寸の結果

名 称	平均 値	標準偏差
身 長	155.5cm	4.6cm
体 重	49.0kg	5.1kg
胸 囲	81.7cm	3.4cm
着 丈	133.0	4.5
身 丈	156.0	—
背 総 丈	131.3	4.7
背 丈	37.6	1.5
腰 下 丈	93.8	4.2
ゆ き	62.5	2.9
袖 丈	47.9	2.6
く び 回 り	37.0	2.2
腕 つけ 回 り	40.4	2.6
腰 回 り	89.9	3.6

(注 身丈は着丈に「はしおり」の分23cmを) 加えたものである。

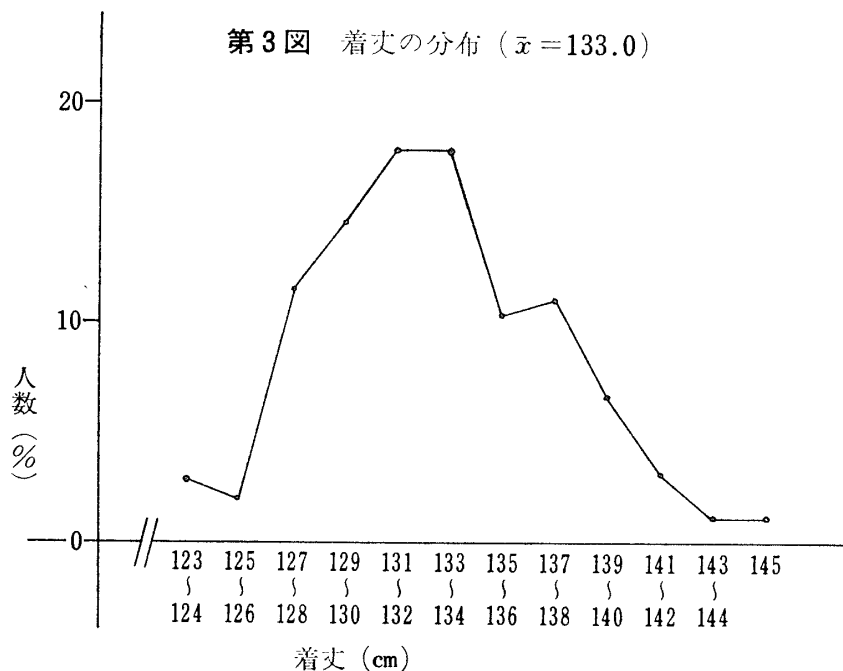


145cmにおよんでいる。なかでも131cmから134cmが最も多く、35.8%を示め、大体127cmから138cmの約10cmの間において約83%の人が存在することになる。そして、着丈の平均値は133cmであった。

和裁に関する著書の着丈の標準寸法は125cmから132cmの範囲であって、これと比較すると、本調査の着丈の方が長い。最近、体位が向上しているのが当然のことと思う。しかし、一方、着丈の採寸方法による差異もあるのではなかろうかと考えられる。

即ち、和服寸法設定基準が確立されていないために、各人、各様の採寸方法を用いている。例えば、着丈の採寸方法については、

- ① 第7頸椎からくるぶしまで測定する方法（測定しにくいので床まで測定して5cm減ずる）
- ② 第7頸椎から床まで測定する方法
- ③ 衿つけぎわから前後にテープをたらし床までの寸法の1/2とする方法などである。



以上の3方法について

も多少の差はあると思うので、採寸方法についてはなお十分に検討を試みる必要がある。

3) 袖丈の分布

袖丈の分布は第4図のように、43cmから58cmにおよんでいる。そのうち47cmから48cmの人が40%と最も多く、ついで、49cmから50cmが25%となっている。これによると、袖丈は45cmから50cmと、わずか5cmの間において83.6%の人が集中しており、袖丈の平均値は約48cmであった。

なお和裁に関する著書の標準袖丈は大体44cmから60cmの範囲であった。本調査から判断して、若い人のふだん着の袖丈は約48cm内外が適当かと思われる。そして、和服の袖丈は感覚的袖丈によって、ある程度融通性のあることが判明したので、標準寸法が重宝に用いられている理由もうなずける。

4) 身長と着丈との関係

身長と着丈との関係は第9表のようである。

身長が高くなるにしたがって、着丈も長くなる傾向がある。そして、着丈は身長約85%から86%であった。これは、石田はる氏が〔和裁〕主婦の友社発行の著書で述べられている、割出

第4図 袖丈の分布 ($\bar{x}=47.9$)



〔第9表〕身長と着丈との関係

身長	人数	着丈	割合
143~144cm	1人	123cm	85.7%
145~146	4	125	85.9
147~148	3	125	84.7
149~150	9	128	85.6
151~152	23	130	85.8
153~154	28	131	85.3
155~156	17	133	85.5
157~158	22	134	85.1
159~160	17	137	85.9
161~162	14	139	86.1
163~164	4	142	86.9
165~166	1	145	87.6
167~168	—	—	—
169~170	2	144	85.0

注) 割合は身長に対する着丈の百分率

〔第10表〕身長と袖丈との関係

身長	人数	袖丈	割合
143~144cm	1人	45cm	31.4%
145~146	4	47	32.3
147~148	3	46	31.2
149~150	9	46	30.8
151~152	23	47	31.0
153~154	28	48	31.3
155~156	17	47	30.2
157~158	22	49	31.1
159~160	17	49	30.7
161~162	14	49	30.3
163~164	4	50	30.6
165~166	1	48	29.0
167~168	—	—	—
169~170	2	44	26.0

注) 割合は身長に対する袖丈の百分率

し寸法として、着丈は身丈の85/100とほぼ一致している。一般に身丈は身長と同寸とみなされているので、着丈は身長の約85%から86%として求めるのが適当であろう。しかし、本調査の着丈は前述のように、床までを採寸した寸法であるので、その点を考慮して各人に必要な着丈は、各人の好みなどに応じて、多少加減して決めるのがよいであろう。

5) 身長と袖丈との関係

身長と袖丈との関係は第10表のようである。

身長が高くなるにしたがって、袖丈も

やや長くなる傾向がある。そして、身長に対する袖丈の割合は約30%から31%であった。

一般に袖丈は身長の1/3とされているが、〔和装と和裁百科〕主婦の友社によれば、若い人のふだん着と年配向きは、身長×1/3-5、石田はる氏の〔和裁〕主婦の友社によれば、ウエスト丈+10cm内外

〔第11表〕身長と柄・色彩による袖丈との関係

身長	人数	割合						
		白地			藍色地			えんじ色地
		大柄	中柄	小柄	大柄	中柄	小柄	
143~144cm	1人	31.4%	31.4%	30.7%	31.4%	31.4%	31.4%	
145~146	4	31.6	30.9	30.9	30.3	31.6	31.6	
147~148	3	31.2	31.9	31.2	31.2	31.2	31.2	
149~150	9	31.4	30.8	31.4	30.8	31.4	31.4	
151~152	23	31.0	31.0	31.0	31.0	30.4	30.4	
153~154	28	30.6	30.6	31.3	30.6	31.3	31.3	
155~156	17	30.9	30.2	30.9	30.9	30.2	30.2	
157~158	22	31.1	31.1	31.1	31.1	31.1	31.1	
159~160	17	30.7	30.7	30.7	31.3	30.7	31.3	
161~162	14	31.0	30.4	31.0	30.4	30.4	31.0	
163~164	4	30.6	31.2	30.6	30.0	30.6	30.6	
165~166	1	30.8	30.8	30.8	30.8	30.2	30.2	
167~168	—	—	—	—	—	—	—	
169~170	2	30.6	29.6	30.6	30.1	30.1	30.1	

注) 割合は身長に対する袖丈の百分率

の両説には、ほぼ一致していることがわかった。

したがって、和服の袖丈を簡単に求めるには、身長の約30%から31%とし、さらに各人の好みなどによって、加減して決めるのが適当であろう。

6) 身長と柄・色彩による袖丈との関係

材料については前述したが、さらに、柄や色彩などによる袖丈の影響をみるために白地の大柄・中柄・小柄、藍色地の大柄・中柄、えんじ色地の小柄ものの「ゆかた」6種類について、(主に藍と白

の1色あるいは2色をあつかった花模様のもの)各人に着装を試みた。その結果、感覚的袖丈は第11表のようであった。

これによると、身長に対する袖丈の割合は約30%から31%であって、柄や色彩などによる差異

土井サチヨ氏の黄金分割によれば、

全頭高×4-(身長-肩先高)

新資料として近年(昭和48年)家政学会での発表によれば、身長-110などという諸説もある。

諸説と本調査とを比較してみると、本調査の方が、身長の1/3とではやや短かく、黄金分割とではより短くなる。また、身長-110とでは長くなる。身長×1/3-5、および、ウエスト丈+10cm内外

〔第12表〕着丈と袖丈との関係

着丈	人数	袖丈	割合
123~124cm	4人	45cm	36.4%
125~126	3	46	36.7
127~128	17	47	36.9
129~130	21	48	37.1
131~132	26	47	35.7
133~134	26	48	36.0
135~136	15	49	36.2
137~138	16	50	36.4
139~140	8	49	35.1
141~142	5	50	35.3
143~145	4	49	34.1

注) 割合は着丈に対する袖丈の百分率

はみられなかった。

7) 着丈と袖丈との関係

着丈と袖丈との関係は第12表のようである。

着丈が長くなるにしたがって、袖丈もやや長くなる傾向がある。これは、「身長と袖丈との関係」で述べた結果と同様である。即ち、身長が高くなるにしたがって、着丈・袖丈も、ともにやや長くなる。

着丈と袖丈についての研究や資料がみあたらないので比較することはできないが、本調査の袖丈は着丈の約36%から37%であった。

着丈は肥った人、痩せた人とは差異があるので、着丈から袖丈を求めることも必要であると思う。しかし、着丈の採寸方法によっては、正確性を欠くこともあるので、便宜的な面から、袖丈は身長を基準にして割出す方が適当ではなかろうかと思われる。

IV 総括

以上の結果を総括すると次のようなことがいえると思う。

1. 和服の袖丈は、体格・地質・流行・好みなど種々の条件によって異なってくるであろうが、袖丈を決める一方法として、今回試みた、感覚的袖丈による決め方は、他の諸説と比較してみても大差ないことが実証されたので、適切な方法と思う。しかし、それには、みる眼の訓練を要するものと思われる。
2. 袖丈に関しては、ゆかた地であったせいか、柄や色彩などによる影響はみられなかった。
3. 袖丈は身長が高くなるにしたがってやや長くなる傾向がある。しかし、若い人のふだん着の場合、標準袖丈は約48cm内外とみるのが適当であろう。
4. 体格にあった袖丈を簡単に求めるには、身長の約30%から31%（あるいは、着丈の約36%から37%）として袖丈を求め、さらに、各人の好みなどによって、加減して決めるのが適当かと思う。

最後に本研究について、御懇切な御指導を賜りました、本学講師、石田はる先生に深く感謝の意を表します。

（本研究は、日本家政学会関東支部、1974年6月発表したものに、新資料を加えたものである。）

引用文献

- | | |
|--------|--------------------------|
| 石田 はる： | 和裁（主婦の友社） |
| 岩松 マス： | 和服裁縫（同志社）、和装と和裁百科（主婦の友社） |
| 鯨岡阿美子： | きもの（文芸春秋） |
| 小林 重順： | 色彩心理学（誠信書房） |
| 高月智志子： | 東京家政大学紀要第13集（1973） |
| 土井サチヨ： | 衣生活（1974. 4） |